

The Intel logo is displayed in white text on a blue rectangular background in the top-left corner of the image.

インテル® vPro® プラットフォーム

IT 担当者が教える
「仕事を効率的に進める
ポイント」



インテル® vPro® プラットフォームの知られざる実力

ほぼすべての組織においてハイブリッド・ワークが実現しています。そして、Software as a Service (SaaS) の台頭からインターネット・オブ・シングス (IoT) などといったテクノロジーの進化やトレンドも相まって、ネットワーク境界によって隔離されたクローズド・プラットフォームという考え方は払拭されました。

サイバー攻撃の手口は多様化しており、技術的な問題に対して現場で個々の対応をするのが難しいため、ITチームが従業員の生産性やデータの安全性を維持できる、安全かつ安定した高パフォーマンスのPCを提供し、管理することは困難です。

インテル® vPro® プラットフォームは、企業ネットワークとともに進化し、これらの課題を解決してきました。ハードウェアとソフトウェアを組み合わせたソリューションを提供し、独立したネットワークでビジネスサイドとIT部門のニーズに応えるインテル® vPro® プラットフォームは、パフォーマンスの向上による生産性の改善、データやデバイスのセキュリティ強化、PCフリートの管理と安定性の向上を実現します。

使用開始時点ではすぐに分かる特長ばかりが脚光を浴びがちですが、実は使い込んで初めて分かるメリットがインテル® vPro® プラットフォームには潜んでいます。この包括的なソリューションから最大限の価値を引き出すため、リモート管理やセキュリティの担当者4名にインテル® vPro® プラットフォームの便利な使い方について話を伺いました。次項以降で、インテル® vPro® プラットフォームの実力を十分に発揮させる4つの方法と、ビジネスに活用する方法についてプロのアドバイスを紹介します。

話を伺った方々



Michela Menting 氏

ABI Research
シニア・リサーチ・ディレクター



Carl S. 氏

Compass Healthcare 最高情報セキュリ
ティー責任者 (CISO) 兼 Spiceworks に
おけるインテル® vPro® プラットフォーム
デベロッパー・アドボケイト



Jonathan M. 氏

マネージド・サービス・プロバイダー (MSP)
のコンピューター・エンジニア兼 Spiceworks
におけるインテル® vPro® プラットフォーム
デベロッパー・アドボケイト



Dan Brunton

インテル、インテル® エンドポイント・
マネジメント・アシスタントの
プロダクト・マネージャー



すぐに利用できるセキュリティー機能で安心

セキュリティーは、インテルがシリコンメーカーとして創業したころから一貫してDNAに刻み込まれています。インテルはプラットフォームをリリースするたびに新しいセキュリティー機能を導入し、サイバーセキュリティーを取り巻く環境の変化に対応しています。Michela Menting氏は次のように述べています。「インテルは『ハードウェア・セキュリティーに優れている』というレベルをはるかに上回っています。チップセット・メーカーというだけではなく、何十年も前からセキュリティー分野のリーダーでもあるのです。利用しない手はありません」

Michela Menting氏は、ITチームはリモート管理機能を優先させ、セキュリティーを後で「別個に付け加えるソフトウェア」と捉えがちであると指摘します。しかし、インテル® vPro® プラットフォームでは、どちらの機能もすぐに利用可能なため、そのような区別は必要ありません。

インテル® ハードウェア・シールドは、インテル® vPro® プラットフォームを搭載するすべてのデバイスに含まれています。最初にシステムの電源を入れた時点から、ハードウェアベースの統合型 PC 予防機能で攻撃対象領域を縮小します。具体的には右記のような機能が含まれます。



OSより下位層のセキュリティー

Michela Menting氏は次のように述べています。「ハッカーはOSレベルではなく、その下のファームウェアを攻撃対象にし始めました。OSベースのセキュリティー・ソフトウェアでは攻撃を検出できません。ハッカーは不正侵入したデバイスから、機密データのみならず、公開鍵やパスワードを盗みます」。インテル® vPro® プラットフォームは、ファームウェア攻撃に対してBIOS内のメモリーを保護する機能やハードウェア・レベルで安全に起動させる機能など、OSより下位層のテクノロジー群を提供しています。これらのセキュリティー機能はPCメーカーにより設定済みで、IT部門やユーザーはすぐに利用できます。

アプリケーションおよびデータの保護

お互いに完全に独立して動作している複数の機器を思い浮かべてください。これが、インテル® ハードウェア・シールドのアプリケーションやオペレーティング・システム向け仮想化ベースのセキュリティーの基本的な考えです。「仮想化により、パフォーマンスを低下させずに、OSカーネルレベルのマルウェアやブラウザーベースの攻撃からの保護が可能になります。これはユーザーにとってありがたいことです」とMichela Menting氏は述べ、インテル® ハードウェア・シールドがハードウェアベースの暗号化を活用したデータ保護も可能であることを指摘しています。

高度な脅威防御機能

インテル® スレット・ディテクション・テクノロジー (インテル® TDT) は、ハードウェアを活用したAI対応の脅威検出機能により、処理スピードを維持したまま、互換性のあるセキュリティー・ソフトウェアを補強します。「インテル® TDTがサードパーティーのソフトウェアと連携して、ランサムウェアやクリプトジャッキングなどの検出しづらい脅威を防御しているところが気に入っています」とMichela Menting氏は述べています。インテル® TDTは、CPUテレメトリーを使用して何百ものイベントを特定し、マシンラーニング (ML) アルゴリズムを使用して、脅威検出だけでなくパフォーマンスの向上にも役立ちます。セキュリティー・ソフトウェアがHi-Fi信号を受信するや否や、修正プロセスが開始されます。

フリーットのセキュリティー向上に関するプロの Tips

1. インテルのテクノロジーのメリットを享受する

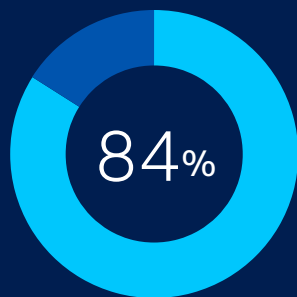
Michela Menting 氏は以下のように述べています。「インテル® TDT は独自性のある非常に有効なソリューションです。インテルはその裏にある仕組みをテクノロジーと統合化の両方の視点からすべて成功させました。IT マネージャーが何かを付け足す必要はありません。箱から出してすぐに使える状態になっています」

2. インテル® ハードウェア・シールドを理解する

インテル® ハードウェア・シールドは現在のサイバー脅威への対策として、ハードウェア、BIOS/ファームウェア、ハイパーバイザー、仮想マシン (VM)、オペレーティング・システム (OS)、アプリケーションなど、システムの多数の層で包括的な保護を提供します。Dan Brunton は以下のように述べています。「インテル® ハードウェア・シールドを検索してみることをお勧めします。そのブランド名で提供されている製品のセキュリティーがいかに素晴らしいかということがいたるところに書かれています。それは、この分野におけるインテルの強みです」

3. 自由に選んだ Endpoint Detection and Response (EDR) ソリューションと統合させる

Michela Menting 氏は次のようにアドバイスしています。「インテルは多くの EDR ベンダーとパートナーシップを組み、いつでも活用できる状態にしています。パートナーシップ・エコシステムのことでも知って、最大限活用してください。すでに統合済みのため、スイッチを入れるだけで使用可能です」



2024年の Forrester の調査では、インテル® vPro® プラットフォームをエンドポイント基準として使用している IT チームの84%が、セキュリティー関連のインシデントおよび侵害件数、また個人データの盗難リスクが減少したと回答¹



インテル® vPro® プラットフォームの リモート管理機能でIT管理が楽に

従来の企業ネットワークの壁が崩れ落ち、IT管理者は突然、多様なデバイスおよび広範囲のネットワークに対応することを余儀なくされました。特に問題がOSよりも下層にある場合、ソフトウェア・ツールでは対処できなくなりました。トラブル対応のためだけに遠く離れた支社まで出張することは非常にコストが高く、かといって地域ごとに技術者を雇うのは管理面を考慮すると最善の選択肢ではありません。

インテル® vPro® プラットフォームのアウトオブバンド管理機能があれば、ITチームはネットワーク接続や電源へのアクセスができないデバイス、もしくは電源がオフになっているデバイスにもアクセス可能です。そのため、全員のPCが正常に動作する状態を維持しなければならないIT管理者の時間、ストレス、労力を減らせます。Carl S.氏は次のように述べています。「遠隔にあるWindowsをインストールする前のデスクトップPCに接続し、リモートメディアをマウントできることが嬉しいです。おかげで、基本的な『アップデート失敗』のような状況に対処するために6時間もかけて現場に出向かなくても済みました。完全にリモートでできたのです。これらのすぐに利用可能な機能が、チームの時間の節約とストレス軽減につながりました」

エキスパートたちに愛されるインテル® vPro® プラットフォームのリモート管理機能を活用することで、いかに業務が楽になるかを紹介します。

リモート監視および管理 (RMM) 機能

インテル® エンドポイント・マネジメント・アシスタント (インテル® EMA) は、デバイスの一元管理、リモートによる電源管理、ハードウェア・インベントリー、ソフトウェアのアップデート、セキュリティ構成、複数のテナントを稼働させる機能などを提供する独立型のRMMツールとして機能します。同時に、インテル® EMAは、Ivanti Neurons、VMWare WS1、ServiceNowなどのRMMソリューションと統合しているため、ITチームは自社に合ったツールを選択できます。

能動的な保守管理

保守管理の実施にユーザーを煩わせることなくシステムの電源をオンにできる利便性についてDan Bruntonは以下のように指摘しています。「何か問題が起こる前にパッチ適用できれば、受動的な対応よりずっと有利です。システムの電源をオンにできる機能が特に便利です。インテル® アクティブ・マネジメント・テクノロジー (インテル® AMT) と併せて使用するソフトウェア管理ツールが何であれ、パッチが配布でき、ユーザーを煩わせることはありません」

デバイス導入の効率化

Carl S.氏は次のように述べています。「新しい機器の導入にかかる時間は大幅に削減されました。今では3回クリックただけで、新しい機器を統合できます。数年前まで、機器の新規導入は本当に一仕事だったことを考えると大変便利になりました」

デスクトップ共有機能

Bruntonは次のように述べています。「対応が必要な問題が持ち上がったとき、ハードウェア・コンポーネントのおかげで、IPネットワーク経由のKVM (キーボード/ビデオ/マウス) 出力が100%信頼できます。Windowsロード前の状態も可視化されます。例えばデバイス上のBitLockerを解除する人に対して、ユーザーがとんとん長くなる文字や数字を読み上げることが不要になり、何時間も時間を節約できます」

リモート管理を楽にするためのプロからのアドバイス

1. Client Control Mode から始める

Dan Brunton は、少なくとも開始時はデバイスをすべて制御可能な Admin Control ではなく、Client Control Mode でデバイスの設定を行うことを推奨しています。「管理者は、インテル® AMT の機能をすべて揃えている Admin Control が大好きです。しかし、Client Control Mode は、テクノロジーを試してみることを阻むプロビジョニングの問題もなく、インテル® AMT のほとんどの機能をサポートします」

2. 差し込むだけでプロビジョニング

プロビジョニング・キーを USB ドライブ上に作成して、デバイスのプロビジョニングを効率化します。このプロビジョニング・キーを使用して簡単にローカルデバイスの設定や構成ができます。「クライアントがセントラルサーバーに応答するために、デバイスに USB ドライブを差し込んで、すべての設定を構築し、すべてのプロビジョニングを迅速かつ簡単に行えることが良いと思います」と Jonathan M. 氏は述べています。

3. ISO イメージを活用

いくつかの有用な ISO イメージを MS サーバーに統合して、リモート起動します。「機器の確認のためにリモートで ISO イメージを起動できることで、技術者の時間や労力を大幅に軽減できます。これらをインテル® EMA に内蔵してリモート起動を可能にすることは、特に小さな機器では大きな利点です」と Carl S. 氏は語っています。





高い生産性のためのパフォーマンスと接続性の向上

安全なプラットフォームは安心感を与えてくれますが、性能が良くないと話になりません。その点、インテル® vPro® プラットフォームの中核を成しているインテル® Core™ Ultra プロセッサは安全性と高性能の両方を備えているため、非常に信頼感があります。3Dハイブリッド・アーキテクチャーを搭載し、応答性の高いパフォーマンスと安定した接続を実現するよう設計されており、ビジネスユーザーは1日中作業に集中し、生産性を維持できます。「インテルのプロセッサは世代を経るたびに高速化していますが、一方で企業はスピードだけを必要としているわけではないことを私たちは認識しています」と Dan Brunton は指摘します。

スピードだけでなく、信頼性、接続性、安定性も同様に重要です。それらを担保する機能を紹介します。

強化された AI 完全対応アーキテクチャー

Dan Brunton は以下のように述べています。「特定のプロセッサに搭載される P-cores や E-cores の数、動作周波数、スレッド命令についていくらでもお話しすることはできますが、インテル® Core™ プロセッサが常に高速化され効率化されていること、そして、インテル® Core™ Ultra プロセッサのラインナップも同様であることを理解していれば十分です」

多数のフォームファクター

インテル® vPro® プラットフォームは、さまざまなフォームファクターで大手メーカー各社から提供されているため、例えば出張の多い社員には超薄型のノートブックPC、そしてグラフィック系の職務を担う社員には高性能ワークステーションというように、社内ユーザーの一人ひとりに適した機器が簡単に見つかります。

高度な接続性

Dan Brunton は次のようにも語っています。「今の時代、ネットワークに接続していなければ仕事になりません。ですから、接続性の向上は絶対に必要です。一方で、Wi-Fi の高密度環境では接続が混乱しかねません」。インテル® Core™ Ultra プロセッサに内蔵されたインテル® Wi-Fi 6 (Gig+) はクラウド・コンピューティングのための無線ネットワーク最適化だけでなく、高密度環境にも理想的です。また、デバイスの無線パフォーマンスをトラフィックの種類によって最適化し、例えば込み合っている無線ネットワーク上でビデオ会議やコラボレーション用アプリケーションを優先させることもできます。



社内フリート向けのインテル® vPro® プラットフォームの評価に関する プロのアドバイス

1. ニーズに合ったデバイスを探す

インテル® vPro® プラットフォームには多くのメリットがありますが、その1つが豊富な選択肢です。Dan Bruntonは次のように述べています。「私たちはデスクトップPCであれモバイルPCであれ、あらゆる形状やサイズの実機を提供しています。インテル® vPro® プラットフォーム（インテル® Evo™ デザイン）は、薄型軽量モバイルデバイスで最高レベルのPC体験を実現させています。従業員を一括りにして考えることはできません。職務によってニーズも異なるからです。こうしたニーズを織り込んだPCフリートを構築できます」

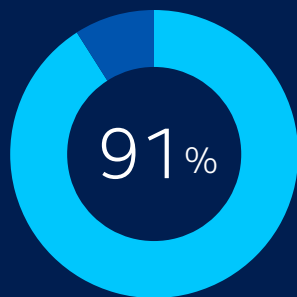
2. 総保有コスト (TCO) を考慮する

Jonathan M.氏は、フリートデバイスの投資対効果 (ROI) を算出する際には長期的な視野に立つことを勧め、次のように語っています。「今後5年から7年の間に使うことが想定される機能を念頭にインテル® vPro® プラットフォームとほかのソリューションを比較してください。インテル® vPro® プラットフォームを搭載したデバイスが堅実な投資であるという結論に至ると思います」。ほかのプロフェッショナルたちも同じ意見です。インテル® EMAに登録された機器が増えれば増えるほど、チームがリモートでの監視や管理を実施するための費用が削減されると、Carl S.氏は指摘しています。そしてDan Bruntonは、インテル® vPro® プラットフォームの安定性とパフォーマンスに優れたハードウェア導入のメリットの1つとして、新旧入れ替えのサイクルを長期化できる点を挙げています。

“ インテル® vPro® プラットフォーム搭載の機器はハイスペックで高性能のため、コスト削減が見込まれます。3年から4年で入れ替えるスケジュールでスタートしましたが、今ではノートブックPCを5年以上使用できると考えています。

Carl S.氏

”



調査対象者の91%がインテル® vPro® プラットフォームを標準装備することにより「従業員のパフォーマンスと生産性が向上した」と回答。また、86%が「インテル® vPro® プラットフォームによりダウンタイムが減少し、コラボレーションが向上した」と回答²



障害を最小限に抑えるプラットフォームの安定性

企業内のエンドユーザー・システムのアップグレードには、手間のかかる作業を伴う懸念があります。承認済みのプラットフォームに予想外のドライバーのバリエーションが存在する可能性があります、そのためにイメージ管理が複雑化し、ハードウェアのサポートコストも上昇することがあるからです。インテル® vPro® プラットフォームおよび Windows OS 搭載の PC は、厳しいテストを受け、スムーズなフリート管理のための安定した基盤を保証します。また、インテル® ステータス IT プラットフォーム・プログラム (SIPP) は、最低 15 か月間、または次世代がリリースされるまで、ハードウェアの変更が発生しないことを目標としたプラットフォームの検証を提供します。

これらの機能は、品質とパフォーマンスを担保しつつ、新しいテクノロジーへの移行を安心して自分のペースで実施できるように設計されています。IT のプロフェッショナルたちがインテル® vPro® プラットフォームの安定性を信頼する理由は主に 3 つです。

単一の統合された検証済みプラットフォーム

インテル® vPro® プラットフォーム搭載デバイスに入れ替えた場合、設計の質、長期の信頼性、互換性は、業界全体で最も厳格な検証プロセスの 1 つによりすでに保証されています。インテルは毎年通年で OEM 各社と連携して何千ものテストや調整・改善を実施し、IT 担当者やエンドユーザーが真のビジネスクラスのデバイスに求める安定性と信頼性の認証を行っています。

ビジネス継続性

Jonathan M. 氏は次のように述べています。「フリート管理における大きな課題はアップデートの展開であり、1 回で成功させたいものです。インテル® vPro® プラットフォームでアップデートが有効になる前に、ファームウェアや BIOS の問題が解決するところが好きです。より大きな安心感を与えてくれます」。インテル® SIPP ではハードウェアの変更が減るためユーザーの手間や中断も減少し、フリートがより円滑に稼働します。その結果、PC のセットアップや構成、そして PC イメージの展開など、全体的な運用がよりシームレスになります。

信頼の実績

インテル® SIPP は、10 年以上にわたり、毎年高品質なコンポーネントを提供し、定義してきました。Jonathan M. 氏は次のように述べています。「多様性のあるフリートを管理するのは複雑性との戦いです。また、安定性とイノベーションの最適なバランスをとることも必要です」。インテルはイーサネット、無線接続、Thunderbolt™ 4 を含む広範なテクノロジーにインテル® SIPP を拡大し、最適なバランスをとるためにコアシステムを超えて取り組んでいます。



フリートの継続性維持に関するプロのアドバイス

1. ハードウェアの枠を超えた価値とコスト削減を考慮する

インテル® vPro® プラットフォームであれば、デバイスをより長く使用でき、新しいテクノロジーへの移行も安心して自分のペースで進められます。調査対象となったIT意思決定者の90%は、インテル® vPro® プラットフォームで有効になっているインテルのサポートとアドオン・ソリューションが、得られた価値全体の重要な部分を占めていると答えています。³

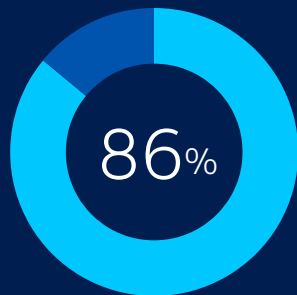
2. デバイスメーカーの枠を超えた視点から考える

デバイスメーカーを1社に絞ると調達が効率化されますが、フリートの継続性や安定性の保証にはなりません。インテル® SIPPはデバイスメーカー全社に対しプラットフォームの安定性に関する共通の要件を設けているため、デバイスベンダーの選択肢は最大限幅広いものになっています。世界中のIT意思決定者を対象とした2024年の調査では、インテル® vPro® プラットフォーム搭載のデバイスは非搭載のデバイスと比べて約30%速く導入可能なことが示されています。⁴

“ 標準以下のインテル® vPro® プラットフォーム搭載機器はありません。すべての機器が標準以上で期待を超えています。使えばチームのだれもが満足すると確信しています。

Carl S. 氏

”



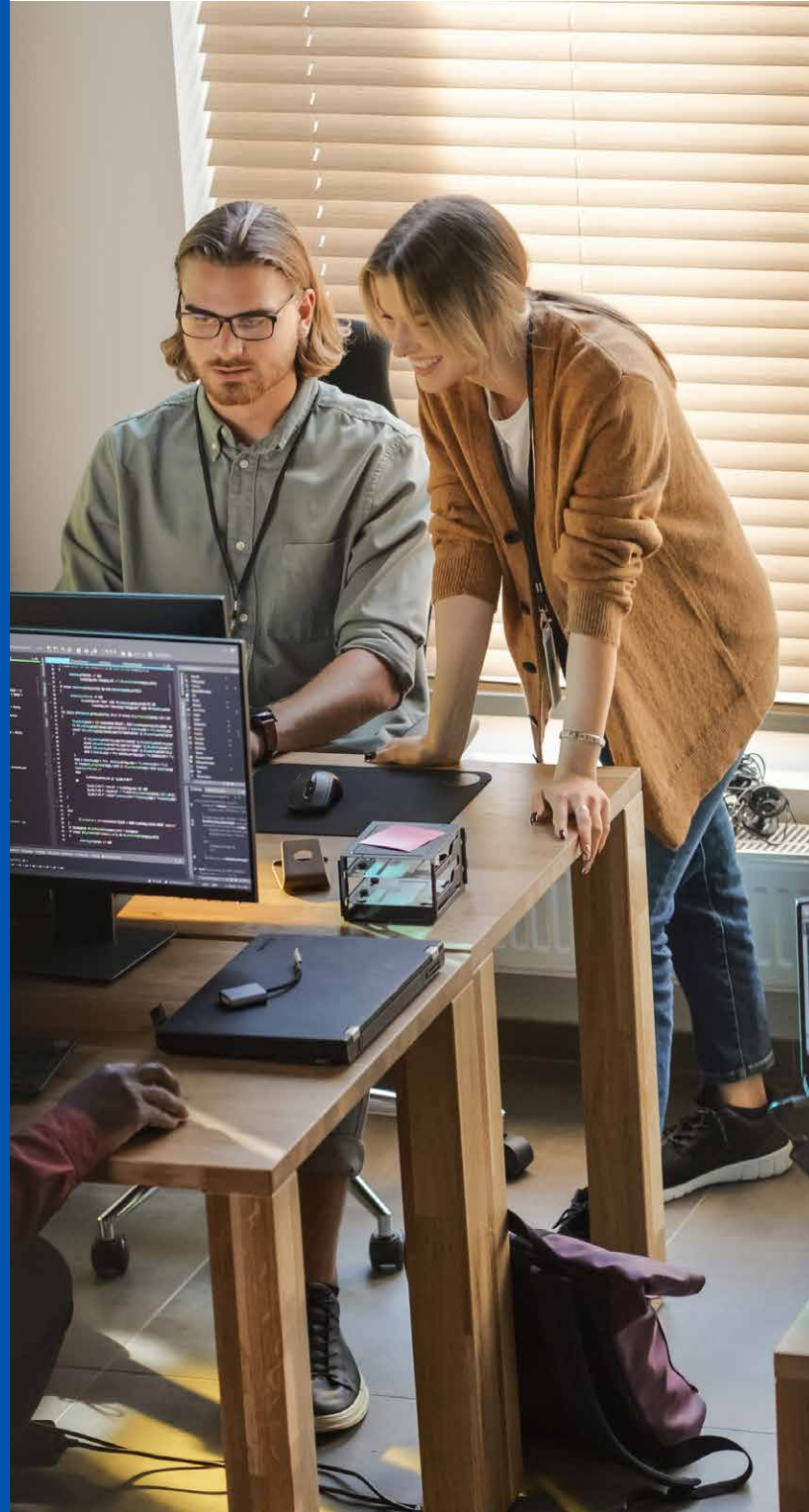
調査対象となったIT意思決定者の86%が「エンドポイント標準としてインテル® vPro® プラットフォームを使用した場合、パッチ適用が効率化された」と回答。また「非搭載デバイスと比較して、管理に費やす時間を65%短縮可能」と回答。⁵

箱を開いたら すぐに利用できる 即戦力でフリートを強化

インテル® vPro® プラットフォームは使い始めるとすぐに、ユーザーにとってはパフォーマンスと接続性が、企業にとってはセキュリティーが、ITチームにとっては効率性とコストが改善し、PCフリート管理の簡素化と向上を実現します。

ITマネージャーの視点からは、自身のワークライフだけでなく、場所を問わずチーム全体のワークライフも改善します。インテル® vPro® プラットフォームは検証済みのハードウェアにより、高度な管理機能の提供だけでなく、パフォーマンスの向上、ハードウェアベースのセキュリティー、プラットフォームの安定性も実現し、フリート管理やビジネス継続性が円滑化します。

Jonathan M. 氏は次のように述べています。「とにかく使ってみることをお勧めします。色々と試してみて、インテル® AMTやインテル® EMA、そしてインテル® vPro® プラットフォームのそのほかのコンポーネントの実力を教えてください。使えるツールが満載です」





インテル® vPro® プラットフォームはあらゆる規模の組織で 抜群の実力を発揮するビジネス・コンピューティング基盤です。 [詳細はこちら](#)

1. Forrester Consulting 「エンドポイント標準としてのインテル® vPro® プラットフォームの Total Economic Impact™ (総合的経済効果)」2024年。インテルの委託により実施された本調査では、アメリカ、カナダ、フランス、ドイツ、イギリス、オーストラリア、中国、インド、日本を含む全世界のインテル® vPro® プラットフォームを利用している企業のIT意思決定者500名が調査対象となりました。実際の結果は異なる場合があります。

2-5. Ibid.

通知と免責事項

性能は、使用状況、構成、その他の要因によって異なります。詳細については、www.intel.com/PerformanceIndex を参照してください。

性能の測定結果は構成情報に記載された日付時点のテストに基づくものです。また、公開中のすべてのアップデートが適用されているとは限りません。構成の詳細については、公開されている追加情報を参照してください。

絶対的なセキュリティを提供できる製品またはコンポーネントはありません。

インテルのテクノロジーを使用するには、対応するハードウェア、ソフトウェア、またはサービスの有効化が必要となる場合があります。

実際のコストと結果は異なる場合があります。

© Intel Corporation. Intel、インテル、Intel ロゴ、その他のインテルの名称やロゴは、Intel Corporation またはその子会社の商標です。その他の社名、製品名などは、一般に各社の表示、商標または登録商標です。